5　調査及び試験の経過

1962年　1月11日　11時30分　那覇港出航

（操業第一日目）

1月16日未明　マックレスフィールドバンクに到着し全南西方 lat 15°—35′N long 114°—42′E附近の水深50m～200mで投縄11回、漁獲物はヒメダイ9尾　メバル7尾　大口マチ（大口イシチビキ）28尾　アオチビキ3尾　平鱗58尾　クチビダイ5尾　白魚（メイチダイ？）6尾　の程度にすぎなかつたが当漁場では漁具の損失が少く釣針（2.8号）の折損枝糸の切損が目立ち鱶とは思えぬ他魚類によるものと推定したが確認する事が出来ず正体が掴めなかつた。

1月17日日（二日目）

lat 15°—255′N long 114°—02′E 瑞昭 南 152の青曲部附近の水深78～200mで投縄15回、漁獲物はヒメダイ62尾　メバル10尾　大口マチ（大口イシチビキ）175尾　ハマダイ5尾の釣獲で午前中は潮流NNE寄りに流れ餌付も稍々良好であつたが午后から潮流SW寄りに変り餌付低調となつた。

1月18日（第三日目）

前日の少し南西水深80～155mの個所にて操業、投縄17回でヒメダイ158尾　メバル34尾、大口マチ172尾　ハマダイ[illegible]尾の釣獲があつた潮流は午前中殆んどWSW寄りに流れ午后はWNWに変つたが餌付に関しては[illegible]釣獲率は今次調査の最高を示している。

1月19日（第四日目）

lat 15°—35′N long 114°—19′E 附近の青曲部にて　4回操業したが漁具の損失多く見込がなかつた。漁具損失は第1日目と状況は全つたく同じ枝糸の切れ口や漁獲物の被害状況から推察して鱶による損失だと思考されたので漁場を移動して [illegible] 直方 lat 15°—245′N long 114°—145′E 瑞昭の水深50～120mにて9回操業し漁獲物はヒメダイ46尾　青ダイ3尾　メバル5尾　大口まち32尾　アオチビキ4尾　アヅキ尾で漁獲率は低下した。なお朝からの季節風が次第に強まり屋頂には強力Vを観測し操業も困難となつた。

1月20日（第5日目）

前日附近の海域にて10回操業したが引続く悪天候のため充分な操業ができず其の上釣針の折損も屢々見受けられ漁獲物はヒメダイ6尾メバル8尾大くちまち（大くちいしろびき）11尾　ハマダイ6尾の程度に終りパラセル　ボンベイリーフに一応避難する事にした。

1月21日（第6日目）ボンベイリ南側

当リーフは長軸10浬短軸5浬もあつて丸々干出しており風下の方では波浪、うねりがない為冬期季節風の避難には何等支障を来たさない海域である為し午ちリーフから水深100m位までは極く緩かな傾斜となり120～130m辺から急深となつている為で縦横な傾斜面には起伏がなく滑らかな岩盤と見做され[illegible]した水産資源の主要魚種であるヒメダイ、青ダイ、ハマダイ等魚群[illegible]で滞息していたものと推察される。なお餌は殆んどとられ種別不明の小魚が群棲しており鮫類[illegible]で大群をヤツチした。

1月22日（第7日目）マックレス　フィールドバンク北部海

lat 16°—65′N long 114°—208′E

天候は徐々に回復する模様だつたのでパラセルから引返し調査を実行したが荒天は依然として